

2021 年度第 5 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2021 年 11 月 16 日（火） 午後 8 時 00 分から 9 時 20 分
- 2 方 法：Zoom アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、中川恭一、保坂一房、堀 渡、
堀越洋一郎
欠席者：
事務局員の参加者：雨谷

(1) 第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2021 年 11 月 1 日現在
正会員 81 名 2 団体 賛助会員 35 名 1 団体、計 116 名 3 団体（合計 119）
（10 月 14 日、賛助会員で元日本図書館協会理事長の竹内愼氏が逝去された。多摩デポとして弔電を送った）

(2) 第 2 号議案 TAMALAS 一括処理システムの活用状況について【報告・討議】

- ・府中市立図書館での大量の書庫資料の点検のための TAMALAS 一括処理システムの活用は、TAMALAS を開発・提供し活用を勧めてきた多摩デポにとっても、これまでにない経験になった。この経験が多摩地域の図書館で共有されることは、蔵書の点検と保存・管理の大きなヒントになるはずである。
- ・この事例を、(株)カーリルの協力も得ながら、府中市の担当職員から多摩デポ実践講座で報告をしてもらい、多摩地域の図書館、図書館員に伝えていきたい。（第 3 号議案参照）
- ・10 月 22 日に TAMALAS 一括処理システム活用の申請が八王子市からあった。申請を受けて ID・パスワードを発行した。これで、発行した自治体は 11 市になった。
- ・TAMALAS 個別処理システムの方は、各自治体で日常的に使われている。
- ・たましん地域文化財団歴史資料室（以下、歴史資料室という）では、(株)カーリルとの共同研究による ISBN（国際標準図書番号）の自動付番と検証作業を経て、図書の所蔵データに ISBN を入力することが始まっている。それによって TAMALAS の検索に組み込むことが可能になるが、歴史資料室の蔵書を表示できるようにした場合、多摩地域での共同保存の目安（多摩地域の公立図書館で最後の二冊）には含まれないと注意喚起する必要がある。今後、そのことを明示しながら TAMALAS に組み込んでいく。

(3) 第 3 号議案 多摩デポ実践講座の企画と開催について【報告・討議】

- ・新規事業として多摩デポ実践講座を始めることになった。事務局から当面の具体案が提案され、検討した。
- ・第 1 回実践講座は「どうして、あれが検索でヒットしないの？」と題し、12 月 7 日（火）20 時から 21 時に Zoom で開催する。図書館職員が日頃、使い慣れているはずの自館の O P A C や、

NDLサーチなどで、当然所蔵していると思われる資料が検索してヒットしないことの疑問の解決やその理由の解明などの検討を目指し、事務局員が話題提供し、(株)カーリル代表吉本氏がコメントする講座にする。

- ・第2回講座は、TAMALAS 一括処理システムを活用した大掛かりな書庫点検とそれに続く除籍作業を実施中の府中市立中央図書館の担当職員、笹川氏に報告してもらい、吉本氏も参加し、同システムを使った書庫点検と圧縮のノウハウを学び、考える講座。
- ・この企画を進めるため、中川理事が11月11日に、東京都市町村立図書館長協議会の図書館サービス研究会に置かれた除籍資料担当者会の活動について、担当館長の日野市立図書館長及び業務係長と協議を行った。両氏からは担当者会の今年度の例会活動に、府中市の活用事例を取り上げたい。基本的には多摩デポとの共催で、ZOOMで実施したいとの旨だった。研究会側で日程や実施方法等を検討中で返事をもらうことになっているが、開催時期は来年1月後半から2月を想定している。経過説明を受けて討議し、了承した。11月19日に開催する(株)カーリルとの共同研究の定例会でも話題にして、準備していく。
- ・実践講座は主に多摩地域の現役図書館員に向けた講座で、多摩デポ活動への職員の関心の喚起や参加増も目的の一つである。うまく軌道に乗っていけるかは、参加者からも事例の提案が返ってくるような、対話的な企画にできるかが鍵になるだろう。第1回講座の反響を受けて行う第2弾を含めて、年度内には3回の講座を予定する。参加者の反応や要望を組み入れ、企画や手法を工夫しながら継続していきたい。

(4) 第4号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

- ・この間、たましん歴史資料室が所蔵する約24,000冊の図書資料に対して(株)カーリルが機械的に付番した約1,000件のISBNデータの、付番の検証作業を行った。
- ・大部分の資料には正しくISBNが付番されていたが、誤付番となった資料が55冊あった。
- ・別紙に資料で示した55冊について、齊藤、田中、中川理事が11月5日に歴史資料室を訪問し、現物を見ながら誤付番になった理由の検討を行った。この結果は11月19日の定例会に出して、(株)カーリルと検討する。
 - ・誤付番の理由(件数は、仮調査段階での件数)
 - ①「書誌違い」……書名、著者名、出版者等の書誌情報の中に同一の文言が含まれているので誤付番になった場合(23件)
 - ②「版・刷次違い」……歴史資料室に所蔵する資料にはISBNが付与されていないが、その後新たな版が出版された時にISBNが付与されたので、それによって付番された場合、および刷りの途中からISBNが付与されている場合(22件)
 - ③「シリーズISBN」……当初からシリーズにひとつのISBNが付番されている場合(2件)
 - ④「その他」……個々に検証が必要な場合(8件)
- ・「書誌違い」は、同一の文言や数字が書誌にあることで付番されたもので、その内容の検証が必要である。
- ・「版違い」も多い。自動付番でそれを防ぐには、突合時に元の資料の年版を意識させ、違う場合は同定しないか、候補リストを出力して人の目で点検することで対応できないか、その検討が必要である。
- ・「シリーズISBN」と「その他」は、個別に検証する必要がある。

- ・歴史資料室の蔵書には図書以外に、雑誌、地図、写真、パンフレット、絵葉書、ポスター等があり、図書の中でも ISBN が付与できる市販図書の割合は少ない。しかし、付与できる資料に ISBN を付与できれば、歴史資料室の蔵書も TAMALAS に組み込んで検索できるようになる。
- 歴史資料室では現在、今回付番された資料データの全件を点検し、正しい付番ならば、データの書名の項目に ISBN を付与している。今後は、歴史資料室が受け入れる資料で ISBN が付与されている図書には、同様に ISBN を入力していく方針である。
- ・歴史資料室がこの実験に所蔵データを使わせてくれたことの意義は大きい。実験と検証を通じて、多摩地域の各図書館でまだ ISBN が付与できていない蔵書への付与の可能性を考えていくことができる。
- ・次の問題だが、多摩デポはこの間、ISBN のない各館の資料の同定識別の方法を研究してきている。それは TAMALAS の開発の後の、「多摩デポ統合検索システム」を改良し公開していく研究課題として続いている。その一つの方策として、歴史資料室がとても網羅的に収集を続けてきた多摩地域の広域の歴史資料の目録データを活用できないか。また、各自治体の図書館の地域資料の書誌割れによる同定識別の困難を容易にするためのツールに使えるか、研究を続けたい。
- ・今回の ISBN の自動付番とその検証については、報告論文を作り、どこかに発表することを考えたい。

(5) 第5号議案 今後の活動の見通しについて【報告・討議】

- ・季刊の『多摩デポ通信』第59号は、次の理事会前に発行する予定なので、現状を報告し、了承された。
 - ・発行時期は、来年の年始となる。
 - ・第1回実践講座を実施した報告を、参加者の声も拾いながら掲載したい。職員限定の講座という企画なので、現役職員以外への分かりやすい報告が大事になる。第1回企画の続編が動き出すようなら、紙面に掲載する。
 - ・あわせて第2回講座の企画や予定を掲載したい。こちらは館長会の担当者会の返事によって開催時期や形態が変わる。『通信』の発行時期との兼ね合いで、掲載できることが変わってくる。
 - ・「カーリルとの研究会報告」、「TAMALAS の活用事例」など定例的な記事を掲載。
- ・現役職員や多摩の図書館界との繋がりを再構築したい意図から、実践講座の企画を進めてきた。コロナ禍という事情もあって Zoom で実施するという提案になったが、新たな可能性を試すことになる。
- ・一方、参加者を現役職員限定としはしない従来の多摩デポ講座については、まだ事務局内では検討が進んでいない。館長会との連携や東京都立図書館との関係作りもまだできていない。

(6) 情報交換

- ・事務局からは特になし

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 第 56 回定例会 11 月 19 日（金）午後 8 時～、 Zoom を使って
- ★ 事務局会議(2021 年度第 9 回) 月 日（ ）午後 8 時～、Zoom を使って
- ★ 次回理事会 第 6 回理事会 2022 年 1 月 18 日（火）午後 8 時～、Zoom を使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、齊藤誠一理事、田中ヒロ理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021 年 11 月 16 日

議長

議事録署名人